

◎ 評価対象分野・施策の方針

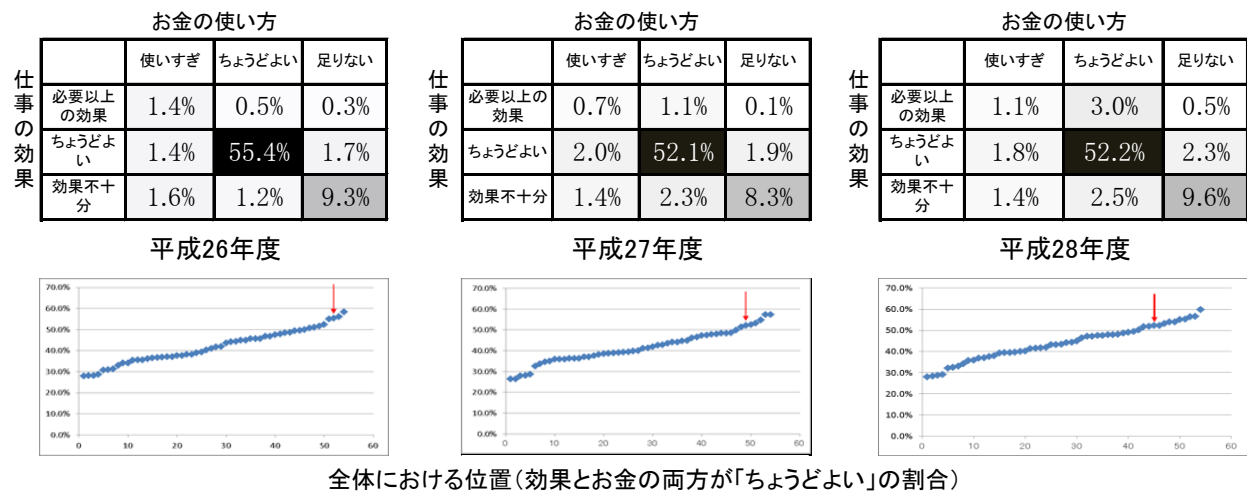
総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	安全・安心で開かれた学校づくり
------------	----	------	-------	-----------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	21.5%	平成27年度	24.6%	平成28年度	21.0%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度の結果では、仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が52.2%と最も高いポイントであり、市民の半数以上が市の取り組みとその予算に対し、当施策は妥当と考えていると分析できる。

平成26～28年度の経年変化においても、傾向に変化は見られないが、「取組を知らない・わからない」人が20%を超えていることから、より一層市民への情報発信が必要と考える。

また、今後の進め方では、3ヵ年とも「もっと力を入れるべき」が18%を超え、平成28年度はお金の使い方が「足りない」、効果「不十分」が9.6%であり、もっと力を入れるべきとの市民意識が伺える。

今後については、児童・生徒の安全対策により一層力を入れていくとともに、教職員のメンタルヘルス等の管理を行いつつ、市民の理解を得ながら、引き続き児童・生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりを進めていく。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	18.7%	53.8%	1.8%	25.8%	100.0%
平成27年度	18.6%	49.6%	1.7%	30.0%	100.0%
平成26年度	18.2%	52.9%	2.4%	26.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。(教育-01、02、14、21)
- ②児童・生徒の良好な教育環境を維持するため、学校や関係部局との連携を図り、計画に沿った業務の遂行に努めていく。(教育-01、02、14、21、23)
- ③教職員や学校職員の適正な人事配置を行う。(教育-02、21)
- ④児童生徒の健康の確保・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施する。(教育-22)
- ⑤学校管理下に置ける児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金等の支出をした。(教育-24)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
教育-01	教育委員会運営事業	6,169	6,149	16,063	15,215	1.3	1.2	b	B
教育-02	事務局運営事業	89,714	86,460	114,830	110,636	3.3	3.2	b	B
教育-14	学校安全対策事業	38,093	39,226	38,843	39,973	0.1	0.1	b	B
教育-21	教職員運営事業	9,877	10,132	25,372	25,639	2.0	2.0	a	A
教育-22	学校保健事務	58,532	59,168	68,604	70,798	1.3	1.5	a	B
教育-23	就学事務	684	771	7,657	8,524	0.9	1.0	a	B
教育-24	学校保険事務	11,841	12,421	13,391	13,972	0.2	0.2	a	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①教育行政の推進を図るため、教育委員会の会議を開催し審議した。(教育-01)
- ②小中学校への就学決定等を行った。(教育-23)
- ②小学校に学校警備員を配置し、児童等の安全確保を図るとともに、学校施設に係る機械警備委託事務を行った。(教育-14)
- ③学校施設管理・学校給食調理業務等に支障を来さぬよう、非常勤嘱託員や臨時的任用職員を配置した。(教育-02)
- ③教職員の適正な人事配置を行うとともに、学校管理職としての資質の向上を図るため研修を行った。(教育-21)
- ④児童生徒の健康の確保・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施した。(教育-22)
- ⑤学校管理下に置ける児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金等の支出を行った。(教育-24)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ②小学校への警備員配置は犯罪等に対する抑止効果の面で非常に有効な手段であるため、保護者及び教職員から評価を得ている。(教育-14)
- ②学校現場や医師会等の関係機関と連携を図りながら適切に事業を進めることができた。(教育-22)
- ③人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員の配置を行えた。(教育-02)

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ①教育委員会制度改革の趣旨に則り、関係機関との連携を強化し、より効率的な教育行政の推進を図っていく。(教育-01)
- ②児童生徒及び教職員を巻き込む凶悪事件が多発する中で、県下他市町村に先駆けて、小学校への警備員配置は抑止効果の面で非常に有効な手段であるため、保護者及び教職員から評価を得ており、今後も引き続き事業を実施していきたい。(教育-14)
- ②児童生徒が安心して学校生活が過ごせるよう継続して事業を実施していく。(教育-22)
- ③学校運営を円滑に進めるとともに教職員の健康の増進を図るため、今後も継続して実施していく。(教育-21)

4 平成29年度の目標

- ・引き続き教育委員会の効果的な運営に努め、教育委員会事務局の適正な運営を図る。
- ・学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。
- ・児童・生徒の良好な教育環境を維持するため、学校や関係部局との連携を図り、計画に沿った業務の遂行に努めていく。
- ・学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。また、教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図り、適切な労働環境を確保するための具体的方策の検討を進める。
- ・引き続き事業を実施しつつ、法改正による対応やシステム導入などの検証等を行い、事務改善に努める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-21	事業名	教職員運営事業						単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	教職員の健康診断受診率										↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
健康診断は、教職員の健康の保持増進のために重要であるため。	目標値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
	実績値	100.0%	100.0%	100.0%								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	教育-21	事業名	教職員運営事業						単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	教職員のメンタルヘルスチェック回答率										↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
教職員自身が精神面の不調やストレスに気付くきっかけとなるため	目標値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
	実績値	96.0%	98.8%	98.8%								
	達成率	96.0%	98.8%	98.8%								
整理番号	教育-22	事業名	学校保健事務						単位	校	指標の傾向	備考
指標の内容	鎌倉市立小中学校での定期健康診断の実施										⇒	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
学校保健安全法に定められた健康診断の実施	目標値	25	25	25	25	25	25					
	実績値	25	25	25								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	教育-22	事業名	学校保健事務						単位	校	指標の傾向	備考
指標の内容	鎌倉市立小学校での就学時健康診断の実施										⇒	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
学校保健安全法に定められた健康診断の実施	目標値	16	16	16	16	16	16					
	実績値	16	16	16								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%								

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・計画にそった業務の遂行が重視されているが、状況把握の結果、計画を見直す等の行為が行われていない。
- ・評価シート内の目標・実施内容が当然の内容の報告ばかりだが、本施策はそれだけで大丈夫なのか疑問である。現在現場で善処が必要な部分があると思うのだが、それらを把握し指標化することなどが求められる。
- ・会議の回数を指標にするのではなく、その結果どのような対応ができたかを目標に据えることが求められる。目標とすべきまの姿の文言に対して、提示された事業の指標では何も評価できない。目標を達成するための研修について、学校保健会理事会、養護部会、学校事務職との研修会を年1回開催することで良いのか再検討が求められる。



指摘への対応、コメント等

本施策は、法令により実施が義務付けられている事業が多く、規定どおり適切に運営することが求められます。

また、教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、外部委員による点検及び評価を行っています。

各種事業については、常に現況を把握し、必要に応じて見直しを行っています。

学校健診や就学事務については、法令で実施が義務付けられ、その内容も規定されていることから、確実な実施のため確認等を行う関係者等の研修・会合を行っています。また、健診は学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び養護教諭等多様な立場の方が関わり、その連携は重要であるため、その代表が一同に集う場を通じ、今後も連携を深めていきます。

提言

- ・目標に掲げた「児童生徒と教職員や友人との信頼関係」「学校・家庭・地域が協力」という観点の施策への取組をもっと進めるべきである。
- ・事業計画は常に見直す、または現況に応じて臨機応変に対応するなど、その場に最適な事業を行うべきである。
- ・安全、安心で開かれた学校づくりのため、地域・家庭へ情報を提供し、協力しあいながら、学校づくりをすすめてほしい。
- ・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関と連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべきである。
- ・教員の再教育等にもっと力を入れるべきである。
- ・教職員を巻き込む凶悪事件が増えているため、安全性を重視しすぎて閉鎖的にならないよう、学校が身近に感じられるようになる取組も行うべきである。
- ・指標については、現場の状況を把握するためのヒアリングやアンケートの実施回数、それらから把握された案件への対応数なども設定すべきである。



提言に関するコメント等(総論)

教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、外部委員による点検及び評価を行っています。

各種事業については、常に現況を把握し、必要に応じて見直しを行っています。

また、今後においては、教職員の多忙化を解消し、業務の軽減を図ることで、適切な労働環境を確保し、そのことにより子どもと向き合う時間の確保を目指します。

このため、平成29年度には、市内小・中学校の教職員を対象にアンケートを実施し、神奈川県や文部科学省と連携を図りながら、学校業務改善に取り組んでいきます。

さらに、教職員の指導力向上のため、各学校で研究授業と研究協議の回数を増やすなどしており、研究授業や校内研修会へも指導主事が積極的に出席し、アドバイスを送るなどしています。

地域や家庭、関係機関とも連携を取り、安全・安心で開かれた学校づくりができるよう今後も努めてまいります。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・市内の小学校はの警備員配置し、児童等の安全確保を図った。
- ・学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置につとめている。
- ・保護者や関係部局と連携を図って取組を遂行している。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	1	→		→
効果	○	2	△	1	—		—

《課題》

- ・開かれた学校づくりはそこに通う児童生徒の保護者、教職員、教育委員会、行政の担当者だけで行われていること自体が「開かれていない学校」という結果をもたらしていないか。
- ・いじめ撲滅教職員がいじめのサインを見逃さないこと、子どもや保護者の訴えを真摯に受け止め、速やかに対応することが大切である。
- ・教職員の健康増進、精神的負荷の軽減なども重要である。
- ・指標として「教職員の健康診断受診率」「教職員のメンタルヘルスチェック回答率」等を設定する事は否定しないが、設定理由が教職員のためだけのものになっている。「目指すべきまちの姿」として「児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送っています」とされていることから、教職員の心身が健康でなければ児童生と楽しく活気ある生活が送れないため、教職員の健康状態を確認する等の理由にして頂きたい。(必ず指標には「目指すべきまちの姿」または「施策の方針」から引用して頂きたい)
- ・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関と連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべき。
- ・会議の開催については、何を協議し、何を決定したのかを明記して頂きたい。

《提言》

- ・小学校への警備員配置は引き続き行ってほしいが、これと機械警備やシステム導入との併用等は有効であると考えられる。
- ・「それぞれ」の「本来の役割」が何かを確認しあうことが急務である。そこがずれていなければ問題は縮小化され则认为る。
- ・「開かれた」と謳う以上、資格にこだわることなく、経験を考慮した市民の助けを持って、学校教育を行ってほしい。
- ・教職員の「心身の健康管理」に更に注力したい。
- ・児童生徒が安心して学校生活を過ごせる事が一番である。それには、学校、地域、家庭との連携を蜜に行ってほしい。
- ・法令による実施業務が多いとのことだが、鎌倉市ならではの事業に対する問題点や工夫点などはあるのか。その点についての洗い出しも行った上で取組を行ってほしい。